

一人一人が備えてこ！ 防災力UP！鳥羽

総務課防災危機管理室 ☎(25) 1118

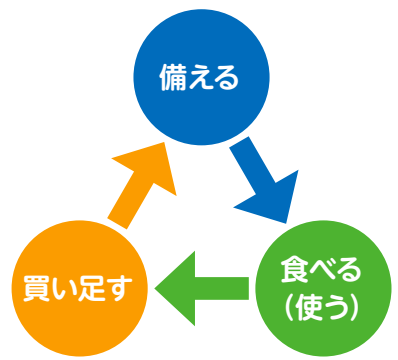


災害時の非常持ち出し品・ 備蓄品を準備しよう

災害がいつ発生したときに必要になるのが備蓄品です。防災のための備蓄は、日常生活とは分けて考えがちですが、普段の生活でいざというときに少し意識してみることが大切です。食料備蓄や非常持ち出し品の準備のポイントについて確認しましょう。

ポイント①
回転備蓄(ローリングストック)
で無理のない備蓄

家庭での備蓄のポイントは、日ごろから利用・活用している食料品・生活必需品を少し多めに購入し、日常的に使いながら補充することで、いざという時のために備える方法です。このような回転備蓄を心がけると常に新しい非常食が備蓄され、普段から食べられているものを災害時にも食べられます。



防災のために特別な物を用意するのではなく、可能な限り普段の生活の中に組み込んで、普段からよく使っている物で賄うのが理想的です。

<p>赤ちゃんや妊婦がいる場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粉ミルク ・ほ乳瓶(消毒セット) ・離乳食 ・紙おむつ ・おしりふき ・母子手帳 など 	<p>高齢者や介護が必要な人がいる場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護用品 ・入れ歯 ・補聴器 ・大人用 紙おむつ ・杖・車いす ・お薬 ・障害者手帳 など 	<p>ペットがいる場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットフード ・ペット用品 (食器、トイレ、リード、ケージなど) ・飼い主の連絡先 など 	<p>病気であったり、薬を飲んでいる人がいる場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お薬 ・お薬手帳・処方箋のコピー ・連絡メモ (病状や処置の方法、緊急時連絡先、かかりつけ医などをひかえたメモ) など 	<p>ポイント② 家庭状況に合わせた対策 家庭の状況に合わせて必要なものを、非常持ち出し品や備蓄品として用意しておきましょう。</p>
--	---	--	--	--

Vol.40

「赤ちゃん返り」

みんなで子育て
だっこでほっと

子育て支援センター
☎(25) 7225

遊びの広場だったこの部屋の出来事です。歩行ができるようになり、走り回っている2歳の子が、ある日1歳の子が這う様子を見て自分も這い始めました。1歳の子がハイハイができるようになって「すごいねー上手だねー」と褒められているのを見て「私だってできるよ！ほら見て！」という思いがあふれる自己アピールだったと思えます。

また、別の子は妹が使っていたプレイジム(寝返りがまだの子が転がって遊ぶ玩具)が空くと慌てて寝転んで遊び始めました。この時は、妹が「かわいいねー」とみんなにあやしてもらっているのを見て、自分も妹のようにみんなにあやしてほしくて、妹の真似をして赤ちゃんになってみたのです。

「すごいねー上手だねー」と褒められているのを見て「私だってできるよ！ほら見て！」という思いがあふれる自己アピールだったと思えます。

でも、この行動は赤ちゃんのような存在に戻って親の愛情を確認し、不安を無くそうとしたり、自分だけを見てほしいという思いの現れであったりします。

その行動に対して過敏に反応したり、叱ったりせずに、赤ちゃん返りの症状を受け止めてあげたいですね。特別なことではなく成長の過程でたくさんの子が経験することです。満足したら、お兄ちゃんお姉ちゃんのパワーを出せるようになりたいです。

